

日時/会場	題目	座長	話題提供者	座長および話題提供者	
【研10】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館402教室 会場名: I-6	土木構造物の計画から維持管理までを問うてみる～土木構造物共通通方書の改訂に向けて～ 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座長 日野 伸一 話題提供者 本間 淳史 佐藤 浩次 北原 武嗣 岩城 一郎 高瀬 照久 山村 正人	九州大学教授、(前)構造工学委員会委員長 東日本高速道路(株) 中央大学 関東学院大学 日本大学 東京都 鹿島建設(株)	土木学会の役割は、土木工学の進んだ知見を広く技術者の間で共有すること、また土木工学の成果や役割への社会的認知を進めることである。進んだ知見を共有するといっても、対象となる技術者の層も、方法論も様々な点がある。最先端の学問的成果共有のための論文集や発表会、あるいは研究成果報告書、そのプレークダウンとしてのガイドラインや指針類、さらに幅広く「技術者に方法を示す」示方書、学生や若手技術者のための教科書などである。皆で使えるようにするにはやすく単純化していく必要があるが、一方で学問や技術の進歩を多くの技術者にきちんと伝えたい思いもあって、プレークダウンをする立場の人間はその狭間で苦心することになる。	
	【研18】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館302号室 会場名: I-2	信頼される鋼橋の実現に向けて～健全度評価の現状と未来～ 鋼構造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/	座長 小西 拓洋 話題提供者 高木千太郎 木村 嘉富 若林 登 野澤 伸一郎 船越 博行	(一財)首都高速道路技術センター 東京都道路整備保全公社:地方自治体橋梁における健全度評価 CAESAR:国の橋梁における健全度評価 首都高速道路(株):首都高速道路での構造物健全度評価 JR東日本:鉄道構造物の健全度評価 オリエンタルコンサルタンツ(株):コンサルタントにおける健全度評価	構造工学委員会では近年、重点領域研究として「土木構造物共通通方書Ⅰ・Ⅱ(2010)」を出版し、また本年「土木構造物ライフサイクルマネジメント小委員会」からガイドラインを出版。構造物管理者へのマニュアルとして利用されることを目指している。これらの活動は成果共有のためのプレークダウンの工夫がなされたものである一方で、時代の変化、技術者に求められる素養の変化など、理念を伝える工夫も凝らされている。本研究討論会では「責任技術者」とは「優れた技術者の差別化」「構造物の要求性能」とは「よい構造計画・悪い構造計画」「よい維持管理計画・悪い維持管理計画」「性能マトリクスをどう使う」「信頼性の考え方をどう使う」「性能設計が聞けるもの」「説明性」と「契約関係」などが挙げられる。個々の委員会活動は独立になされているが、新しい時代に技術者に求められるもの・どの層に何を伝えるか、などについて総合的な議論を踏まえ、2015年に予定される土木構造物共通通方書の改訂に資することを期待している。
	【研24】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館505教室 会場名: I-11	社会基盤大更新時代における長期予測の現状と展望～未来を見通す知恵としての力学・土木百年の計～ 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html	座長 堀 宗朗 話題提供者 高橋 桂子 中村 和幸 中畑 和之	東京大学、応用力学委員会委員長 JAMSTEC・プログラムディレクター 明治大学先端数理科学研究所・准教授 愛媛大学理工学研究所・准教授	社会基盤の大更新時代を迎えた今、環境・巨大災害への対応に関して、短・中期だけでなく長期予測が不可欠である。この長期予測を科学的・合理的に行うためには、ハイパフォーマンスコンピューティングやデータドリブンテクノロジーという新しい技術と土木工学を新たに結び付ける研究開発が必要である。この結びつきを、教育も視野に入れて、どのように実現していくべきかについて議論する。長期予測の現状と展望から、将来の期待・夢とそこに到達するための道筋を検討する。
【研03】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館503、504教室 会場名: I 部門(予備)	公共事業費減少と弱者救済を視野に入れた水循環NWのあり方 地震工学委員会・水循環NW災害軽減研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/cec2/	座長 竹内 幹雄 話題提供者 池本 良子 宮島 昌克 吉川 泰弘 安田 誠宏 飛田 哲男 日置 潤一 小川 文章	フリーランス、小委員会副委員長 金沢大学大学院理工学研究領域環境デザイン系教授:上下水道環境保全 金沢大学大学院教授:災害時救急施設への上下供給・保全 北見工業大学大学院教授:新幹線川における河川津波の塩水組上現象 京都大学防災研究所助教:無動力且つ人的操作が不要な陸上設置型フラッグブレード 京都大学防災研究所地盤災害研究領域助教:液状化災害の実態とバイブライン・保全 厚生労働省健康局水道課長補佐:(仮)水道事業の持続性確保と危機管理理部 国土交通省国研地下水道研究室長:(仮)L2津波対応と沿岸域下水処理場のあり方	人口減少社会が始まり、公共事業費の減少は年を追って目立ってきています。同時に少子高齢化社会へと突入り、パラダイム・シフトと弱者救済が叫ばれています。これらを基本的条件とすれば、①低コスト・高性能な防災ハード技術の開発、②弱者救済の災害時防災システムのあり方が、一層求められていることとなります。本討論会では、①に対しては、より低コストで高性能な防災・免震構造の開発や長時間地震動に起因する液状化発生などの新しいメカニズム、②に対しては、地域を主体とした小規模浄水システムや救急施設等への給水保全その他の話題を提供し、今後の水循環NWのあり方を皆様と一緒に考えたいと思います。	
	【研14】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館502教室 会場名: I-10	建設分野の災害対応マネジメント力の育成について～ケースメソッド手法の活用策、その効果等について～ 建設マネジメント委員会 http://committees.jsce.or.jp/cmc/	座長 木下 賢司 話題提供者 上谷 昌史 川嶋 直樹 小山 健一 高田 朝子 他	(社)プレスト・コンクリート建設業協会 (一財)河川情報センター (一財)日本建設情報センター 国土交通省東北地方整備局 法政大学大学院(ケースメソッド)	建設マネジメント委員会では東日本大震災の初動対応時の困難な状況下での建設分野の関係者の判断や行動を題材に、ケースメソッド手法を用いた災害対応マネジメント力の育成のあり方について、ケース作成、模擬授業等を通じてその手法の開発に取り組んでおり、この研究討論会では、ケースの主人公となる東日本大震災の初動対応の当事者による災害対応マネジメントの話題提供のもとに、ケースメソッド手法の権威者や防災訓練の専門家に加わり、災害対応マネジメント力の育成のあり方、ケースメソッド手法の活用策について討議する。なお、災害対応マネジメント力とは、災害発生時における通信機能の喪失等の制約下において、適切な初動対応を行うための、人、モノ、情報等の資源を有効に活用する能力をいう。
【研20】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館603、604教室 会場名: V-3	社会的安全・安心を実現するインフラ構築に向けて～コンクリート分野における近年の課題と取組み コンクリート委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html	座長(予定) 二羽 淳一郎 話題提供者(予定) 丸山 久一 中村 光 岩田 道敏 木村 嘉富 前川 宏一	東京工業大学(ローディネータ) 長岡技術科学大学(津波外力の評価) 名古屋大学 JR東日本東北工務事務所 土木研究所 東京大学	災害から国土、文明、生命を守り、安心できる社会を支えることは土木構造物の最も重要な役割である。そのために研究、技術開発がすすめてきた。しかし、東日本大震災における津波による橋梁被害、トンネルの天井板崩落事故、などの事例はまだ解決しなければならぬ課題が残されていることを示している。社会の安全安心を実現するインフラの構築のためのコンクリート分野における課題と取組みについて討議する。	
	【研21】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館705教室 会場名: V-7	市民参加型防災まちづくりの取り組みについて コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp	座長 上野 俊司 話題提供者 森本 章倫 芦野 光憲 大曾 根正一 伊藤 将司	国際航業株式会社取締役 宇都宮大学大学院工学研究科教授 独立行政法人都市再生機構 サンコーコンサルタンツ株式会社 株式会社福山コンサルタント	東日本大震災からの復興まちづくりが進められるとともに、全国各地で防災まちづくりの取り組みが積極的に実施されている。復興まちづくりの市民参加はもとより、事前に検討する防災まちづくりにおいてもその必要性が高まっている。また、近年においては、地域の多様な市民ニーズに対応するために、積極的に市民が関わる事例が増えており、防災まちづくりにおいても、地域の防災力の向上が不可欠になってきている。本研究討論会においては、当委員会がこれまで活動してきた市民合意形成に関する研究成果を活かしながら、今後の市民参加型防災まちづくりのあり方を論点に、合意形成のプロセス、計画・施策づくりにおける留意事項、地域力の向上のための取り組み、さらには土木技術者・合意形成プロデューサーの役割などについての討議を行い、今後の方向を探ってみたい。
【研25】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館602教室 会場名: V-2	福島原発事故由来汚染廃棄物対策と放射性廃棄物処分事業の推進に向けて エネルギー委員会および放射性汚染廃棄物対策土木技術特定テーマ委員会 http://committees.jsce.or.jp/enedobo/	座長 大西 有三 話題提供者 その他調整中	京都大学総長特別補佐	土木学会では研究討論会や共通セッションにおいて、高レベルならびに低レベルの放射性廃棄物処分に関わる土木技術を軸に様々な検討を継続してきた。そのような中、2011年3月11日には東日本大震災に伴う未曾有の福島第一原子力発電所の事故が発生してより2年が経過し、福島の復興・復興に向けての各方面での取り組みが懸命になされているものの、まだ十分な状況に至っていないのが現状である。本研究討論会では、それらの汚染廃棄物対策への取り組みについて、さらに従来から取り組みがすすんで来ている低レベルおよび高レベルの放射性廃棄物処分事業の最近の取り組み状況ならびに今後への新たな展開について、土木技術の分野として原子力分野などと連携してどのように取り組んでいくのか、現状と課題などについて議論する。	

社会インフラ関係

災害関係

日時/会場	題目	座長 話題提供者	座長および話題提供者																
【研04】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館303、304 教室 会場名: I-3	水理・水文学解析のための汎用プラットフォームの活用と国際展開 水工学会委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/ 国内外で水理・水文学解析のためのソフトウェアやソフトウェア同士の連携を可能にする汎用プラットフォームが開発されており、様々な分野で活用が進んでいる。我が国においても、従来から種々の水理・水文学解析ソフトウェアが開発されており、平成19年からは産官学の連携のもと汎用プラットフォームが開発されているが、我が国の技術力に比して、それらの活用は限定的である。本討論会では、これらのソフトウェアの開発・活用状況をレビューするとともに、河川、下水道水事業等への導入・活用のための方策と国際展開の戦略について議論する。	座長 話題提供者	山田 正 未定 中央大学理工学部土木工学科																
		【研02】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館405教室 会場名: I-8	CIMと情報化施工の現状、将来～産・官・学の立場からの建設生産システム合理化提案～ 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/occeps/ 建設生産システムの新たな取組みとしてCIMの導入が開始されている。本講演会は、CIMの現状として試行業務の状況や情報化施工の技術開発動向を紹介するとともに、産(設計者、施工者)、官(事業発注者)、学(技術開発者)の立場から、建設生産システム合理化の方向性について、パネルディスカッション形式にて提案を行う。	座長 話題提供者	五十嵐 善一 高村 裕平 笹田 俊治 福地 良彦 藤澤 泰雄 杉浦 伸哉 矢吹 信成 株式会社奥村組情報システム部長、土木情報学委員会 ICT施工研究小委員長 国土交通省大臣官房技術調査課 建設システム管理企画室長 日本建設情報総合センター研究開発部グループ長 土木学会土木情報学委員会ICT施工研究小委員会 委員 建設コンサルタンツ協会 ICT委員会 CIM技術専門委員会 委員長 日本建設業連合会インフラ再生委員会 技術部会 委員 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻教授、土木情報学委員長														
				【研06】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館403、404 教室 会場名: I-7	魅力ある産業「土木」ー子供、学生達が将来是非やりたい仕事、それを目指してー 建設技術研究委員会 http://committees.jsce.or.jp/sekou/ 建設産業の担い手となる技術者や技能労働者の確保・育成が課題になっている。建設産業が果たしている役割、ものづくりの喜び・魅力といった建設産業の働きがい等をPRすることが重要である。本討論会では、多様な視点から、土木の魅力を語り、再認識するとともに、子供、学生達が将来是非やりたい仕事と意識してもらうために、何を何にどうやって変えていけば良いかを議論する。	座長 話題提供者	茅野 正恭 家田 仁 韓 亜由美 石山 智恵 建設技術研究委員会委員長、鹿島建設(株)専務執行役員土木管理本部長 東京大学工学部教授 前精工大学総合デザイン工学科教授、株式会社スタジオオ ハン デザイン主宰 フリーアナウンサー(元NHK)												
						【研08】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館702教室 会場名: V-5	今求められる技術者教育とは？ 技術推進機構 継続教育実施委員会 http://www.jsce.or.jp/ocpet/cpd.shtml 巨大地震、洪水等の自然災害に対する安全性の確保、既存構造物の劣化問題等、土木工学に求められている使命は以前にも増して高まっているが、財政、少子化問題、熾烈な価格競争による安全性の低下等、その状況には厳しいものがある。このような下でも社会的要請に応えるためには蓄積した資産と限られた資源の最大活用がこれまで以上に求められる。特に、持続可能な社会の実現のためには、過去から現在まで蓄積されてきた土木技術・知の適切な伝承と新たな環境への適用が不可欠である。本研究討論会では、現状の厳しい社会情勢の中で、今、本当に業界が必要とする能力を身につけるための継続的な技術者教育について議論する。	座長 話題提供者	竹村 次朗 西村 政洋 松田 光弘 今酒 誠 伊藤 和也 継続教育実施委員会委員、東京工業大学 国土交通省関東地方整備局千代田国道事務所長 (株)建設技術研究所東京本社地球環境センター長 大成建設(株)土木本部土木技術部長 (独)労働安全衛生総合研究所、主任研究員										
								【研09】 9月4日(水) 16:15-18:15 37号館605教室 会場名: V-4	都市再生と地下空間一期時と展望一 地下空間研究会・土木計画学研究会 http://www.jsceours.org/ http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtml 高密度化する都市において、地下空間は残された貴重な空間であり、その活用は都市の再生においても重要な役割を果たしている。本討論会では、各地の都市再生プロジェクトにおける地下街の事例を紹介しつつ、地上空間との連携、鉄道駅などインフラとの関係、快適な移動のためのアメニティの確保、災害時の避難行動など、多様な視点から地下空間への期待を述べていただく。それらをもとに、今後の展望について総合的な議論を展開するものである。	座長 話題提供者	渡邊 浩司 岩倉 成志 粕谷 太郎 羽藤 英二 和氣 典二 東日本旅客鉄道(株)ターミナル計画担当部長 芝浦工業大学工学部教授 都市地下空間活用研究会主任研究員 東京大学大学院 神奈川大学客員教授								
										【研12】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館602教室 会場名: V-2	舗装の維持管理の直面する課題とこれからのあり方 舗装工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/pavement/index.html 舗装は、安全で円滑かつ快適な交通を確保するための重要な道路インフラである。また、舗装は供用と共に構造的あるいは機能的な性能が低下することから、その状態を適切な時期に適切な方法で把握し、性能を維持・回復することが求められている。一方、舗装の維持管理を実施するための予算や技術者の不足などから、技術の高度化による点検・調査の効率化や予防保全によるライフサイクルコストの最小化などが求められる半面、予算や人材の制約が大きい市町村などの組織や体制の実態を考慮した維持管理のあり方が問われている。本討論会では、組織や体制の実態に合わせた舗装の効率的・効果的な維持管理のあり方について、産官学のそれぞれの立場からの意見をもとに討議を行うものである。	座長 話題提供者	七五三野 茂 貝戸 清之 渡邊 一弘 日比野 健 坂井 康人 小沼 貞雄 遠藤 浩隆 株式会社高速道路総合研究所参与・管理基盤推進担当部長、舗装マネジメント小委員会委員長 大阪大学大学院工学研究科社会基盤工学コース社会基盤マネジメント学領域准教授 土木研究所道路技術研究グループ舗装チーム主任研究員 東京都町田市建設部総務課 阪神高速道路建設事業本部課長代理 株式会社バスインフラマネジメント事業部 調査技術部部長 ニチレキ株式会社道路エンジニアリング部アセットマネジメント課 課長代理						
												【研16】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館101教室	これからの社会インフラの維持管理・更新のあり方ー土木学会で取り組むべき課題と対処戦略ー 社会インフラ維持管理・更新検討タスクフォース http://committees.jsce.or.jp/infra_tf/ 社会資本の維持管理・更新の重要性が社会的に再認識されるなか、本年1月に土木学会内に「社会インフラ維持管理・更新検討タスクフォース(委員長:橋本太郎次期会長)」が設置された。本討論会では、社会インフラの維持管理・更新の各分野で深い知見を有する専門家に参加いただき、取り組まれている維持管理・更新の現状を踏まえ、タスクフォースで議論した社会インフラの維持管理・更新に関して、「維持管理・更新に関する知の体系化」、「人材確保・育成」、「制度の構築・組織の支援」、「入札・契約制度の改善」、「国民の理解・協力を求める活動」など、土木学会として取り組むべき重点課題を中心に、社会インフラの維持管理・更新のあり方をさぐる。	座長 話題提供者	鈴木 基行 石橋 忠良 岩波 光保 小澤 一雅 鳥居 謙 佐々木正昭 東北大学大学院工学研究科土木工学専攻教授 ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社取締役会長 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻教授 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻教授 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部部長 青森県庁県土整備部道路課橋梁・アセット推進グループ総括主幹				
														【研17】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館302教室 会場名: I-2	土木構造物の持続性を考慮した300年プロジェクト 複合構造委員会300年プロジェクト小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/index.html 複合構造委員会では、平成24年度に「300年プロジェクト」の実施に向けて、課題の整理を行った。複合構造物は、鋼やコンクリートなど種々の建設材料をその特性を生かした形で様々な組み合わせをすることで構成されている。一方で、土木構造物は、設計時点においては、ある耐用年数を設定してはいるものの、実際には、要求される機能を満たす範囲で半永久的に供用されている。また、近年では従来にはなかったFRPなど新しい材料が開発され適用されつつある。このような中、「300年プロジェクト」では、土木構造物の意義を一般の市民にも理解してもらうとともに、土木の魅力や次世代の土木技術者に伝えることを目的に、すべての建設材料を同一の規格(環境、空間、試験方法)で北海道から沖縄まで日本各地の大学や研究機関において暴露試験を実施し、その成果を広く周知するものである。このプロジェクトは、100周年を迎える土木学会及び現代の土木技術者からの未来へのメッセージとして、壮大で有益な知見が得られると思われる。また、半永久的に供用される土木構造物に対する現代の研究者・技術者の責務とも考えている。本研究討論会では「300年プロジェクト」及び関連した話題提供者を迎えて土木構造物の持続性について討論を行う。	座長 話題提供者	上田 多門 古市 耕輔 下村 匠 杉浦 邦征 神田 尚樹 小林 正治 北海道大学 鹿島建設株式会社 長岡技術科学大学 京都大学 小樽港湾事務所 姫路市役所		
																【研27】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館703、704 教室 会場名: V-6	これからのライフラインの維持管理・更新点検技術ー維持管理・災害時点検に建設用ロボットが担うべき役割とはー 建設用ロボット委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/robot/index.html 我が国の社会基盤は戦後の高度成長期に急速に整備され、今まさに更新の時期を迎えつつある。そのため、安心・安全な社会生活を維持するために、社会基盤の効率的かつ確実な維持管理および補修更新の重要性は大きく変わっている。また、先般の地震によりライフラインは、地上構造物のみならず、地下構造物も被災している。そのような状況下において、災害時の迅速な点検技術は復旧・復興の迅速さを左右する技術的要因として大きくクローズアップされている。本研究討論会では、委員会活動の紹介と各ライフライン施設の維持管理に関する現状と課題、ならびに点検診断、補修更生技術等に関する最新技術動向について講演いただいた、さらに将来に向けた課題、展望について討論する。	座長 話題提供者	建山 和由 勢田 昌功 岩見 吉輝 今村 幸一 井坂 昌博 佐藤 清和 須山 憲次 神 克美 瀧川 久伸 友近 志志 建設用ロボット委員会委員長 国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課 事業総括調整官 国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全企画室長 首都高速道路株式会社 安全・交通部 点検・保全計画課 東京都下水道局 施設管理部 管路管理課 東京都下水道局 総務部 東京ガス株式会社 基盤技術部 NTTアクセスサービスシステム研究所シビルシステムプロジェクト管路グループ JR東日本研究開発センター 東京電力パワーグリッド・カンパニー 工務部 水土木グループ

その他

社会インフラ関係

日時/会場	題目	座長	座長および話題提供者
【研22】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館402教室 会場名: I-6	BCP/DCPを巡る課題と動向 ～市民目線で捉えた被災と地域継続計画の在り方～ 安全問題研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/csp/csp1.htm	座長 白木 渡 話題提供者 磯打千雅子 広兼道幸 大幡 勝利 長谷川 潤 須藤 英明 その他調整中	香川大学 香川大学 関西大学 労働安全衛生総合研究所 千代田コンサルタント㈱ 鹿島建設㈱
	平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方から関東の太平洋側に未曾有の被害をもたらした。このような大規模自然災害に備え、自治体や企業等においてはBCP(事業継続計画)を策定し、災害発生後に組織として機能・活動が維持できるよう、種々の取組みが行われている。こうした状況下、近い将来に予想される東海・東南海・南海等の大地震、あるいはゲリラ豪雨や竜巻等の局地的異常気象等に備え、「地域住民の目線で捉えた生活環境や社会基盤の維持管理・整備」が、被災への大切な検討課題のひとつと考えられる。当討論会では、こうした観点から、関係各位との有意義な意見交換を行いたい。	座長 大野 春雄 話題提供者 高橋 広行 三上 卓 佐藤 翔輔	土木技術映像委員会委員長、東日本大震災アーカイブ特別委員会副委員長(建設教育研究推進機構理事、攻玉理工短期大学名誉教授) 土木技術映像委員会(東京都立田無工業高校) 土木図書館委員会、元地盤工学委員会津波避難調査小委員会幹事長 東北大学みちのく震録伝(東北大学 災害科学国際研究所)
	土木学会情報資料部門では、今後の災害対策、防災技術の開発、国土計画、社会基盤整備などのために、東日本大震災に関する土木学会委員会、会員、市民による、調査研究活動、記録写真・映像等を収集・公開する「土木学会東日本大震災アーカイブサイト」を2011(平成23)年12月から開設、運用している。本研究討論会では、これまでに収集された映像・写真・報告書・論文など各種コンテンツの登録状況や、GIS・映像配信DB構築の現状報告とともに、蓄積データの活用や各方面のアーカイブサイトとの連携など今後の展開について幅広い視点から討議を行い、土木学会東日本大震災アーカイブの次のステップを展望する。	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
【研23】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館303, 304教室 会場名: I-3	土木学会東日本大震災アーカイブサイトの現状と課題 東日本大震災アーカイブ特別委員会 http://www.jsce.or.jp/library/eq20110311/index.shtml	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
	土木学会情報資料部門では、今後の災害対策、防災技術の開発、国土計画、社会基盤整備などのために、東日本大震災に関する土木学会委員会、会員、市民による、調査研究活動、記録写真・映像等を収集・公開する「土木学会東日本大震災アーカイブサイト」を2011(平成23)年12月から開設、運用している。本研究討論会では、これまでに収集された映像・写真・報告書・論文など各種コンテンツの登録状況や、GIS・映像配信DB構築の現状報告とともに、蓄積データの活用や各方面のアーカイブサイトとの連携など今後の展開について幅広い視点から討議を行い、土木学会東日本大震災アーカイブの次のステップを展望する。	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
	東日本大震災を機に各支部に「安全な国土への再設計」支部タスクフォース(TF)が設置された。TFでは、過去の災害履歴の洗い出し、災害情報のアーカイブ化、分野を超えた連携ネットワーク構築、地域ごとの社会構造や災害特性などを踏まえた災害アセスメント、発生時の対応策の検討、次世代技術者の育成、市民交流活動など、自分たちの地域を「安全な国土」へ再設計するための各支部において独自の取り組みを行っている。 本討論会では、各支部TF代表者から各地域での災害リスクとそれに対する取り組みについて報告するとともに、パネルディスカッションを通して支部発の「安全な国土への再設計」のあり方について情報共有をはかる。	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
【研26】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館705教室 会場名: V-7	「安全な国土への再設計」プロジェクト 「安全な国土への再設計」支部連絡 http://committees.jsce.or.jp/social01/	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
	東日本大震災を機に各支部に「安全な国土への再設計」支部タスクフォース(TF)が設置された。TFでは、過去の災害履歴の洗い出し、災害情報のアーカイブ化、分野を超えた連携ネットワーク構築、地域ごとの社会構造や災害特性などを踏まえた災害アセスメント、発生時の対応策の検討、次世代技術者の育成、市民交流活動など、自分たちの地域を「安全な国土」へ再設計するための各支部において独自の取り組みを行っている。 本討論会では、各支部TF代表者から各地域での災害リスクとそれに対する取り組みについて報告するとともに、パネルディスカッションを通して支部発の「安全な国土への再設計」のあり方について情報共有をはかる。	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
	東日本大震災を機に各支部に「安全な国土への再設計」支部タスクフォース(TF)が設置された。TFでは、過去の災害履歴の洗い出し、災害情報のアーカイブ化、分野を超えた連携ネットワーク構築、地域ごとの社会構造や災害特性などを踏まえた災害アセスメント、発生時の対応策の検討、次世代技術者の育成、市民交流活動など、自分たちの地域を「安全な国土」へ再設計するための各支部において独自の取り組みを行っている。 本討論会では、各支部TF代表者から各地域での災害リスクとそれに対する取り組みについて報告するとともに、パネルディスカッションを通して支部発の「安全な国土への再設計」のあり方について情報共有をはかる。	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 佐藤 慎司 その他調整中	名古屋大学大学院教授 水資源機構理事長 東京大学大学院教授
【研01】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館702教室 会場名: V-5	国際リーニアライダ(ILC)施設の土木工事に関するガイドラインの策定 国際リーニアライダ施設の土木工事に関する標準示方書策定小委員会 http://www.rock-jsce.org/index.php?FrontPage	座長 近久博志 話題提供者 宮原 正信 真下 英人 西本 吉伸 岩尾 哲也 秋田 勝次 岡部 治正 山岡 尚義	株式会社地盤システム研究所 高エネルギー加速器研究機構 土木研究所 電源開発 高速道路総合技術研究所 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 日建設計 復建調査設計
	本委員会は、ILC施設の土木工事の施工に関する課題や問題点に対して、現時点で考えられる対応策をガイドラインとしてまとめようとするものです。平成22年度は国際リーニアライダ小委員会の研究成果である「加速器建設の土木技術に関する調査研究報告書」を基にして、今後の活動の方向性や方針を検討しました。平成23年度はその結果を踏まえ、それぞれの課題ごとに作業部会を立ち上げ、課題解決のための検討を行いました。平成24年度はこれらの成果としてガイドラインのファーストドラフトを作成しました。今回の研究討論会では、ILC施設の現状および作成したガイドラインの概要の説明ならびにこれらについての議論を予定しています。	座長 味埜 俊 話題提供者 桑江朝比呂 小川 浩史 惣田 訓 久保 篤史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 (独)港湾空地域技術研究所 東京大学大気海洋研究所 大阪大学大学院工学研究科 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
	本委員会は、ILC施設の土木工事の施工に関する課題や問題点に対して、現時点で考えられる対応策をガイドラインとしてまとめようとするものです。平成22年度は国際リーニアライダ小委員会の研究成果である「加速器建設の土木技術に関する調査研究報告書」を基にして、今後の活動の方向性や方針を検討しました。平成23年度はその結果を踏まえ、それぞれの課題ごとに作業部会を立ち上げ、課題解決のための検討を行いました。平成24年度はこれらの成果としてガイドラインのファーストドラフトを作成しました。今回の研究討論会では、ILC施設の現状および作成したガイドラインの概要の説明ならびにこれらについての議論を予定しています。	座長 味埜 俊 話題提供者 桑江朝比呂 小川 浩史 惣田 訓 久保 篤史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 (独)港湾空地域技術研究所 東京大学大気海洋研究所 大阪大学大学院工学研究科 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
【研05】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館305教室 会場名: I-4	都市沿岸海域の炭素循環: 下水処理とブルーカーボン 環境工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ee/index.html	座長 味埜 俊 話題提供者 桑江朝比呂 小川 浩史 惣田 訓 久保 篤史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 (独)港湾空地域技術研究所 東京大学大気海洋研究所 大阪大学大学院工学研究科 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
	水域で吸収・貯留される炭素をブルーカーボンと呼ぶ。沿岸生態系が熱帯林に匹敵もしくはそれを上回る高いCO2吸収速度を有する研究例があるが、都市沿岸海域での検証は十分なされていない。人間活動由来の栄養塩による都市沿岸海域の富栄養化は改善すべき対象と考えられているが、有機物の難分解性も含めた水域でのCO2吸収・貯留「機能」を正しく理解し、水域の管理に結び付けていくことが望まれる。本討論会では、沿岸域での炭素循環・難分解性の機構と下水処理などの水質改善技術に関する環境工学と海洋・水質科学の専門家からの話題提供とともに、都市沿岸海域の将来の姿についての討議を行う。	座長 味埜 俊 話題提供者 桑江朝比呂 小川 浩史 惣田 訓 久保 篤史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 (独)港湾空地域技術研究所 東京大学大気海洋研究所 大阪大学大学院工学研究科 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
	水域で吸収・貯留される炭素をブルーカーボンと呼ぶ。沿岸生態系が熱帯林に匹敵もしくはそれを上回る高いCO2吸収速度を有する研究例があるが、都市沿岸海域での検証は十分なされていない。人間活動由来の栄養塩による都市沿岸海域の富栄養化は改善すべき対象と考えられているが、有機物の難分解性も含めた水域でのCO2吸収・貯留「機能」を正しく理解し、水域の管理に結び付けていくことが望まれる。本討論会では、沿岸域での炭素循環・難分解性の機構と下水処理などの水質改善技術に関する環境工学と海洋・水質科学の専門家からの話題提供とともに、都市沿岸海域の将来の姿についての討議を行う。	座長 味埜 俊 話題提供者 桑江朝比呂 小川 浩史 惣田 訓 久保 篤史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 (独)港湾空地域技術研究所 東京大学大気海洋研究所 大阪大学大学院工学研究科 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
【研07】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館401教室 会場名: I-5	大学・高等教育における知識能力の質保証と国際通用性のある技術者資格制度－高等教育機関が到達すべき「水準」は、誰が、どのようにして決めるのか－ 教育企画・人材育成委員会 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会 http://committees.jsce.or.jp/education/	座長 木村 定雄 話題提供者 依田 昭彦 坪塚 誠 若井 明彦	金沢工業大学教授地域防災環境科学研究所 土木学会教育企画・人材育成委員会前主査理事、早稲田大学 教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、独立行政法人国立高等専門学校機構教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、群馬大学大学院教授
	背景と趣旨: 2014年に土木学会は創立100周年を迎え、わが国における土木工学の学問・技術体系は成熟しつつある。一方、多様化する土木技術、地球規模の課題への対応、学際的な分野の発展など、土木工学を取り巻く環境は急速に変わりつつあり、それらに柔軟かつ適切に対応する能力を有する土木技術者の養成が急務となっている。そのためには大学等の高等教育機関における土木工学教育プログラムを有効に機能させ、これを技術者資格等の産業界内の社会制度と積極的に連携させることが効果的である。本小委員会では、土木工学における知識体系(Body of Knowledge)とそのコアとなるべき項目の例を提案するための調査を行ってきた。すでに米国土木学会(ASCE)ではこのような視点からの土木工学知識体系(CEBOK)が提案されていることから、土木学会においてもこれを参考としながら、グローバルな視点を見失わないように注意しつつ、わが国固有の事情に配慮した日本版CEBOKを一層早く策定することが望まれる。これらは今後土木工学を学ぶ若き技術者の能力向上を強く後押しするであろう。 企画の概要: 上記趣旨のもとで活動を推進するにあたり、高等教育機関側から考える修了生の具体的な到達目標と、産業界の側が要請している(学部修了時点での)最低限の到達水準とが、互いに整合しているかどうか、高等教育機関における知識能力の質保証と国際通用性のある技術者資格制度の確立のためには、極めて重要である。改定されたJABEEの認定基準においても、社会の要請する最低水準を意識した目標の設定は重視されており、高等教育機関と産業界が連携してこの課題に取り組むことが求められている。本討論会では、上記趣旨のもとでの委員以外の参加者からの意見(Public Comments)を収集、さらには知識体系を考える上で不可欠な到達水準に対する集中的な討議を行うため、土木学会全国大会の開催期間中に特別セッション(研究討論会)を運営する。討論会の内容は、基調講演とパネル	座長 木村 定雄 話題提供者 依田 昭彦 坪塚 誠 若井 明彦	金沢工業大学教授地域防災環境科学研究所 土木学会教育企画・人材育成委員会前主査理事、早稲田大学 教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、独立行政法人国立高等専門学校機構教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、群馬大学大学院教授
	背景と趣旨: 2014年に土木学会は創立100周年を迎え、わが国における土木工学の学問・技術体系は成熟しつつある。一方、多様化する土木技術、地球規模の課題への対応、学際的な分野の発展など、土木工学を取り巻く環境は急速に変わりつつあり、それらに柔軟かつ適切に対応する能力を有する土木技術者の養成が急務となっている。そのためには大学等の高等教育機関における土木工学教育プログラムを有効に機能させ、これを技術者資格等の産業界内の社会制度と積極的に連携させることが効果的である。本小委員会では、土木工学における知識体系(Body of Knowledge)とそのコアとなるべき項目の例を提案するための調査を行ってきた。すでに米国土木学会(ASCE)ではこのような視点からの土木工学知識体系(CEBOK)が提案されていることから、土木学会においてもこれを参考としながら、グローバルな視点を見失わないように注意しつつ、わが国固有の事情に配慮した日本版CEBOKを一層早く策定することが望まれる。これらは今後土木工学を学ぶ若き技術者の能力向上を強く後押しするであろう。 企画の概要: 上記趣旨のもとで活動を推進するにあたり、高等教育機関側から考える修了生の具体的な到達目標と、産業界の側が要請している(学部修了時点での)最低限の到達水準とが、互いに整合しているかどうか、高等教育機関における知識能力の質保証と国際通用性のある技術者資格制度の確立のためには、極めて重要である。改定されたJABEEの認定基準においても、社会の要請する最低水準を意識した目標の設定は重視されており、高等教育機関と産業界が連携してこの課題に取り組むことが求められている。本討論会では、上記趣旨のもとでの委員以外の参加者からの意見(Public Comments)を収集、さらには知識体系を考える上で不可欠な到達水準に対する集中的な討議を行うため、土木学会全国大会の開催期間中に特別セッション(研究討論会)を運営する。討論会の内容は、基調講演とパネル	座長 木村 定雄 話題提供者 依田 昭彦 坪塚 誠 若井 明彦	金沢工業大学教授地域防災環境科学研究所 土木学会教育企画・人材育成委員会前主査理事、早稲田大学 教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、独立行政法人国立高等専門学校機構教授 土木工学分野における知識体系・能力体系の検討小委員会委員、群馬大学大学院教授
【研11】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館405教室 会場名: I-8	ねばり強い景観まちづくりのあり方を考える 景観・デザイン委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ltd/index.html	座長 天野 光一 話題提供者 神田 昌幸 武藤 隆晴 角本 孝夫	日本大学理工学部まちづくり工学科 教授 富山市副市長 郡上市 特定非営利活動法人サステイナブルコミュニティ総合研究所 理事長
	現在、全国の自治体では、景観形成の取組みを契機としたまちづくり、いわゆる景観まちづくりが進みつつある。いわば、まちづくりの戦略を立てるうえで、景観が欠かせない視点となってきたと言える。いまでもなく、景観は、長い時間をかけて育むものである。すなわち、こうした景観まちづくりは、一過性のものではなく、長期的・戦略的な視点から、時代の流れに左右されない、ねばり強さが必要である。そこで、本研究討論会では、長期的・戦略的視点から取組みを展開している景観まちづくりの多様な実践事例を踏まえ、ねばり強い景観まちづくりのあり方や具体的な取組みについて討議する。これからの景観まちづくりを担う学生の参加も大いに期待する。	座長 天野 光一 話題提供者 神田 昌幸 武藤 隆晴 角本 孝夫	日本大学理工学部まちづくり工学科 教授 富山市副市長 郡上市 特定非営利活動法人サステイナブルコミュニティ総合研究所 理事長
	現在、全国の自治体では、景観形成の取組みを契機としたまちづくり、いわゆる景観まちづくりが進みつつある。いわば、まちづくりの戦略を立てるうえで、景観が欠かせない視点となってきたと言える。いまでもなく、景観は、長い時間をかけて育むものである。すなわち、こうした景観まちづくりは、一過性のものではなく、長期的・戦略的な視点から、時代の流れに左右されない、ねばり強さが必要である。そこで、本研究討論会では、長期的・戦略的視点から取組みを展開している景観まちづくりの多様な実践事例を踏まえ、ねばり強い景観まちづくりのあり方や具体的な取組みについて討議する。これからの景観まちづくりを担う学生の参加も大いに期待する。	座長 天野 光一 話題提供者 神田 昌幸 武藤 隆晴 角本 孝夫	日本大学理工学部まちづくり工学科 教授 富山市副市長 郡上市 特定非営利活動法人サステイナブルコミュニティ総合研究所 理事長
【研13】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館505教室 会場名: I-11	土木コレクション 土木コレクション小委員会(土木の日実行委員会) http://committees.jsce.or.jp/day/	座長 樋口 明彦 話題提供者 島谷 幸宏 原口 征人 出村 嘉史 真田 純子 二井 昭彦 真鍋 政彦	九州大学大学院 九州大学大学院 北海道開発技術センター 岐阜大学 徳島大学 国士舘大学 日経コンストラクション
	土木コレクションは、北海道から九州まで全国の100を超える土木プロジェクトについて、明治期から昭和初期の土木エンジニアが手書きで描いた美しく繊細な図面を中心としたコレクションを収集し、2008年より土木の日と全国大会に合わせて、広く一般の方に土木の幅広さ、奥深さを直感的に理解してもらうための展示会「土木コレクションHANDS+EYES」展を開催してきた。研究討論会では、土木コレクション展の企画主旨とこれまでの5年間の取組みを総括すると共に、土木学会百周年、百周年後に向けて、土木学会が市民に向けてどのようなアピールができるかを考える。	座長 樋口 明彦 話題提供者 島谷 幸宏 原口 征人 出村 嘉史 真田 純子 二井 昭彦 真鍋 政彦	九州大学大学院 九州大学大学院 北海道開発技術センター 岐阜大学 徳島大学 国士舘大学 日経コンストラクション
	土木コレクションは、北海道から九州まで全国の100を超える土木プロジェクトについて、明治期から昭和初期の土木エンジニアが手書きで描いた美しく繊細な図面を中心としたコレクションを収集し、2008年より土木の日と全国大会に合わせて、広く一般の方に土木の幅広さ、奥深さを直感的に理解してもらうための展示会「土木コレクションHANDS+EYES」展を開催してきた。研究討論会では、土木コレクション展の企画主旨とこれまでの5年間の取組みを総括すると共に、土木学会百周年、百周年後に向けて、土木学会が市民に向けてどのようなアピールができるかを考える。	座長 樋口 明彦 話題提供者 島谷 幸宏 原口 征人 出村 嘉史 真田 純子 二井 昭彦 真鍋 政彦	九州大学大学院 九州大学大学院 北海道開発技術センター 岐阜大学 徳島大学 国士舘大学 日経コンストラクション
【研15】 9月6日(金) 12:40-14:40 37号館502教室 会場名: I-10	「三環状道路プロジェクト」を取り巻く地盤工学的トピックス 地盤工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/jiban/	座長 谷 和夫 話題提供者 池田 豊人 平山 光信 その他調整中	防災科学技術研究所 国土交通省関東地方整備局道路部長 土木研究センター地盤汚染対応技術検討委員会副委員長
	首都圏の深刻な道路渋滞の解消や、高速道路ネットワークのミッシングリンクの解消が要求されることを背景に、三環状道路プロジェクト(首都圏中央環状線、東京外環道、圏央道)の整備が進められています。現在整備中の区間については、既に市街化された区間での道路整備が大半であるため、大深度地下を含めた地下空間の有効活用や、それに伴う最新の地下空間構築技術の活用、地下水、建設発生土などの環境問題に配慮した事業の推進が求められ、様々な地盤技術が活用されています。そこで、本討論会では、三環状道路プロジェクトの最新の地盤工学的トピックスに焦点を当て、現状ならびに今後の展望について討議する内容とします。	座長 谷 和夫 話題提供者 池田 豊人 平山 光信 その他調整中	防災科学技術研究所 国土交通省関東地方整備局道路部長 土木研究センター地盤汚染対応技術検討委員会副委員長
	首都圏の深刻な道路渋滞の解消や、高速道路ネットワークのミッシングリンクの解消が要求されることを背景に、三環状道路プロジェクト(首都圏中央環状線、東京外環道、圏央道)の整備が進められています。現在整備中の区間については、既に市街化された区間での道路整備が大半であるため、大深度地下を含めた地下空間の有効活用や、それに伴う最新の地下空間構築技術の活用、地下水、建設発生土などの環境問題に配慮した事業の推進が求められ、様々な地盤技術が活用されています。そこで、本討論会では、三環状道路プロジェクトの最新の地盤工学的トピックスに焦点を当て、現状ならびに今後の展望について討議する内容とします。	座長 谷 和夫 話題提供者 池田 豊人 平山 光信 その他調整中	防災科学技術研究所 国土交通省関東地方整備局道路部長 土木研究センター地盤汚染対応技術検討委員会副委員長

日時/会場	題 目	座長および話題提供者
<p>【研19】 9月6日(金) 12:40-14:40</p> <p>その他</p> <p>37号館605教室 会場名:V-4</p>	<p>土木広報アクションプラン「伝える」から「伝わる」へ 社会コミュニケーション委員会 http://committees.jsce.or.jp/publicity/</p> <p>社会コミュニケーション委員会では、土木の広報戦略をテーマに研究討論を重ねてきており、効果的な戦略に基づいて情報発信を行い、ふつうの暮らしを支えている土木について住民の理解・信頼を得ながら「共」に社会を「築」いていく方向性を求めていくことを提案している。今般、本委員会の下に設置された「土木広報アクションプラン小委員会」において『土木広報アクションプラン「伝える」から「伝わる」へ』を取りまとめた。東日本大震災の教訓や社会資本の役割などを国民に理解してもらうために土木関係者、産学官の総力で取り組むことを示したものである。これを踏まえて、土木広報の理念論から具体的な実行論へと展開していきたい。</p>	<p>座長 大石 久和 一般財団法人国土技術研究センター国土政策研究所長(土木広報アクションプラン小委員会委員長)</p> <p>話題提供者 越智 繁雄 国土交通省大臣官房技術調査課長(土木広報アクションプラン小委員会)</p> <p>緒方 英樹 一般財団法人全国建設研修センター事業推進室企画推進部長 (社会コミュニケーション委員会)</p> <p>佐々木 正 一般財団法人国土技術研究センター 上席主任研究員(社会コミュニケーション委員会、土木広報アクションプラン小委員会)</p> <p>龍 尊子 大成建設株式会社土木営業本部営業部(土木広報アクションプラン小委員会)</p> <p>丸岡 吉人 株式会社電通PR局長</p> <p>深沢 令子 株式会社ジェイティービー 東日本国内商品事業部首都圏仕入販売部営業開発課長</p>